

徳川将軍家の狩猟と足立区

所在地：足立区立郷土博物館（寄託） ※常設展示はしていません



小金牧の鹿狩りの様子
(柏市大久保忠寛氏所蔵)

御鹿狩勢子村旗瀧江領嶋根村

この旗は島(嶋)根村の名主の家に伝わったもので、旗の中央に大きく「御鹿狩御用 瀧江 領嶋根村 勢子人足四十一人」とあり、島根村から勢子が動員されたことを伝えています。勢子は、狩猟者が獲物を狙いやすいように野生動物を一定の場所に追い込んだりする役割を負っていました。この旗は、勢子がどの村の人々かわかるようにするための目印として使用されました。

嘉永2年(1849)、12代将軍徳川家慶は小金牧(千葉県北西部に広がる牧場)で大規模な鹿狩りを行います。この旗はその際使用されたものです。歴代将軍の中には、狩猟を好む者が多くいましたが、この鹿狩りはその規模において最大級のものであったといわれており、近郷農村から動員された人数は5万人以上といえます。足立区内では入谷村からも動員されていたことが確認されています。

幕末の政情不安定の中で行われたこの鹿狩りは、幕府の権威を示す目的もありました。しかし、動員された人々には多大な負担となり、かえって幕府への恨みを買うことになりました。

文化財豆知識 桐田家の黒松

この旗が伝来した桐田家は、島根村の名主でした。桐田家の門前には、樹齢約300年ともいわれる立派な黒松が今も立っており、区の保存樹木に指定されています。勢子に動員された島根村の人々もきっとこの黒松を見上げていたことでしょう。

